

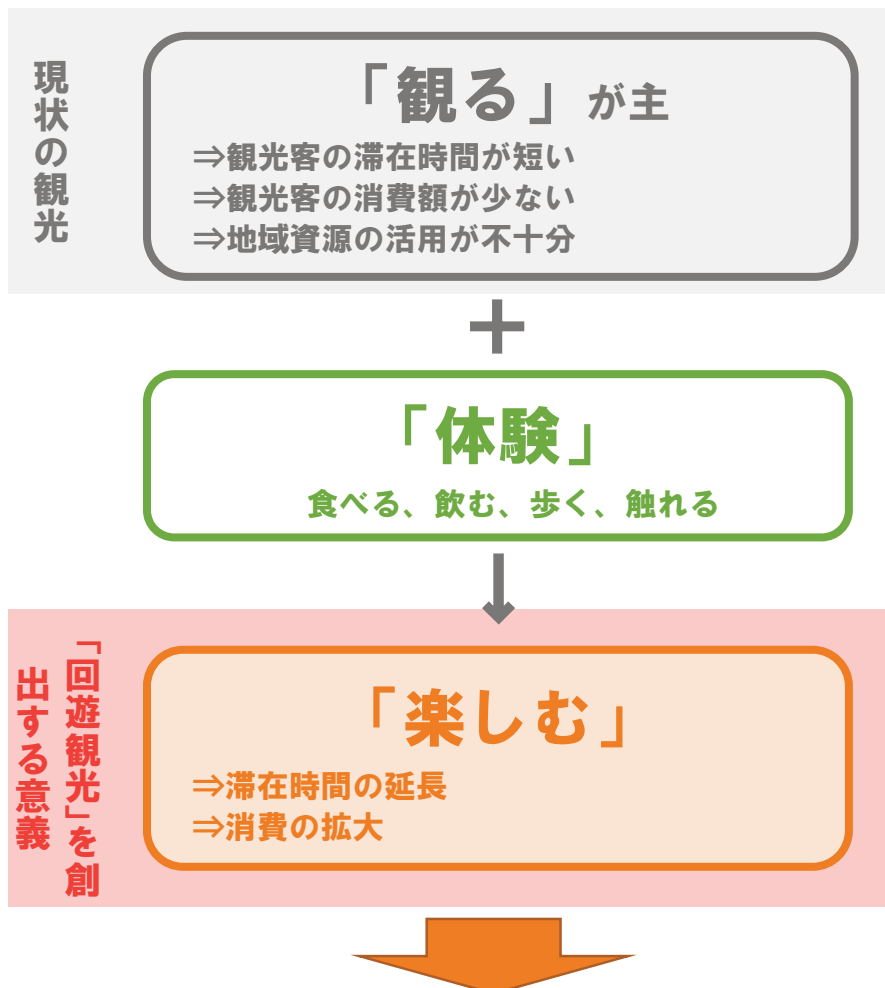
2 章 回遊観光全体整備方針

1 回遊観光を創出する意義と目指すべき姿

現在、勝連南風原地区は、「世界遺産勝連城跡」に年間17万人以上の観光客が訪れていますが、勝連城跡周辺にある歴史・文化資源が十分に活用されておらず、勝連城跡のみを観て次の観光地に移動しているのが現状です。そのため、勝連城跡周辺での滞在時間が短く、観光客の消費額も少なくなっています。

「観る」が主になっている観光を解決するために、「体験（食べる、歩く、学ぶ、創る、触れる）」を導入して、勝連城跡を訪れる観光客に「楽しんで」もらい、滞在時間を延ばし、観光客の消費の拡大につなげます。これらの観光客が「楽しむ」、「滞在時間の延長」、「消費の拡大」をすることが、回遊観光を創出する意義です。

勝連城跡周辺の回遊観光の目指すべき姿を、自然や景観、歴史・文化など地域全体を楽しむことができる『屋根のない博物館』として目指します。



自然や景観、歴史・文化等を地域全体で楽しむ
「屋根のない博物館」

2 回遊観光の基本方向

目指すべき姿の実現に向けた回遊観光の基本方向を次のとおりに設定します。

1) 歴史・文化のストーリー化

- 地域資源の魅力を最大限に引き出し、勝連城跡周辺を回遊させるきっかけを創出するために、地域全体の歴史・文化の「ストーリー化」をしてつなげ、県内外に広く認知されることを目指す。
- また、観光客に見せるための整備がされていない集落内にある地域資源を、ストーリーに沿った歴史・文化を感じられる観光資源として活用することを目指す。

2) 地域住民との交流の創出

- 勝連城跡周辺への訪問者の滞在時間や消費額の拡大につなげるために、地域住民の暮らしや文化を活用した体験型のメニューなど、観光客と地域住民との交流の促進を目指す。
- また、地域住民が学芸員となって観光客を受け入れられるように、地域住民の人材育成を積極的に行い、受け入れ体制の構築を目指す。

3) 移動したくなる環境の整備

- 観光客にとって魅力的な目的地（ゴール）の設定と移動しやすい環境を整備することにより、回遊したくなる環境を目指す。
- また、休憩所やベンチ、美しい植栽、歴史的なまち並みの景観など、移動中も回遊を楽しんでもらえる環境を目指す。

4) 地域主体による管理・運営

- 屋根のない博物館では、豊かな自然や景観、多様な地域資源、地域住民との交流を活用した地域全体の取り組みを推進するため、勝連城跡周辺で活動している各市民団体と協力・連携を図り、地域住民など地域主体による管理・運営を目指す。
- また、地域住民が主体となって、地域の歴史・文化資源や産業などの地域資源を活かした、着地型観光*を企画し、地域の活性を目指す。

* 着地型観光とは、観光客の受け入れ先が地元ならではのプログラムを企画し、参加者が現地集合、現地解散する新しい観光の形態。主に都会にある出発地の旅行会社が企画して参加者を目的地へ連れて行く従来の「発地型観光」と比べて、地域の振興につながると期待されている。

3 整備方針

勝連南風原地区は、阿麻和利やカッチンバーマーなどの伝説などを感じることができる歴史・文化資源が多く残っており、勝連城跡周辺の集落にも、当時の文化資源や農業や漁業の地域産業も残っていますが、観光資源として十分活用されていません。

地域特有の資源を地域全体で楽しめる「屋根のない博物館」を目指すために、古から受け継がれてきている「肝高(きむたか)」*の精神を感じる回遊観光まちづくりを推進することが必要です。

勝連城跡周辺の良好な景観や自然、史跡などの多様な地域資源や地域住民との交流の活用を促すために、地域住民や市民団体等の多様な主体が参加・活動する場を「舞台」として位置付け、整備していくことと目指します。

整備方針は以下のとおりです。

整備方針

『緑が輝く肝高の歴史浪漫の舞台づくり』

いにしえ
～ 古より受け継がれる「肝高のまち」にメンソーレ～



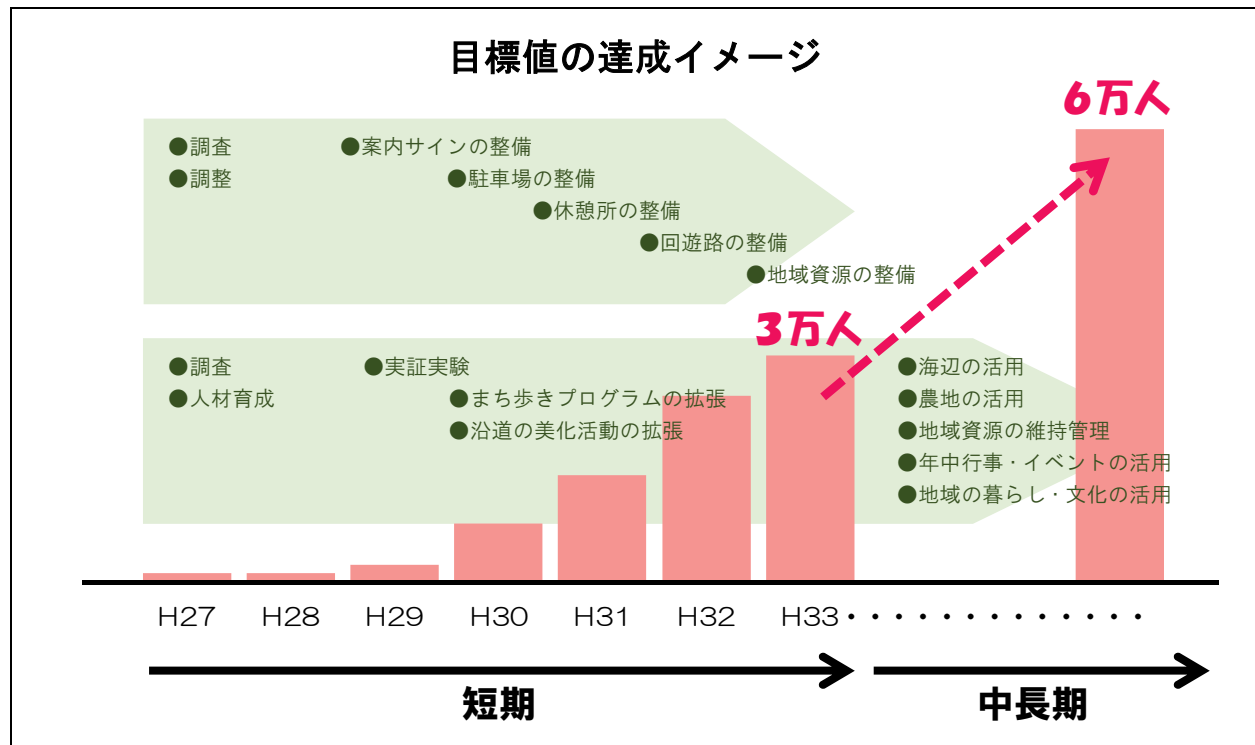
* 肝高(きむたか)とは、沖縄最古の歌謡集「おもろさうし」で見られる古語で、「心豊か」「気高い」などを意味し、高い生活文化を称えた勝連および勝連城の美称のことである。

4 目標値の設定

本計画における、指標は「勝連南風原地区内を回遊する観光客数」とします。また、本計画は、ハード整備とソフト整備で計画の期間が異なるため、段階的（短期、中長期）に目標値を設定します。

短期の期間は平成33年度として3万人を目指します。中長期の期間は平成34年以降として6万人を目指します。

目標値の達成イメージは以下のとおりです。



5 回遊コース（モデルコース）と重点資源の設定

勝連城跡周辺の回遊観光を効率的に推進していく為に、優先的かつ重点的に整備を行う地域資源及び施設を設定します。

(1)回遊コース(モデルコース)設定の視点

回遊コースの設定にあたっての視点は以下のとおりです。

1) 南風原地区の「歴史」、「自然」、「交流」を活かす

- 地区の特徴であり、かつ勝連城跡周辺文化観光拠点整備基本計画で基本方針に設定されている「歴史」、「自然」、「交流」を十分に活かした回遊コースを設定する。

2) 既存のルートや今まで検討したルートを活かす

- 現在、利用されているまち歩き（うるまーい）のルートや、今までの検討会で検討された本集落内のルートなどについては、できる限り活かす。

勝連城跡から歴史を感じるルート

- うるまーいのルートを基準に設定。勝連城跡と周辺の歴史資源をめぐるルート。

集落内の歴史・文化を感じるルート

- かっちゃん南風原景観まちづくり検討会で作成したルートを基準に設定。集落内の歴史・文化資源をつなぐルート。

ユビダー周辺の自然を体感するルート

- 勝連城跡周辺文化観光拠点整備基本計画で設定されているルートを基準に設定。ユビダーの自然景観やユビダー越しに見る勝連城跡の景観を楽しむルート。

3) 世界遺産勝連城跡（休憩所）や県道16号線を起点とする

- 地区内で最も観光客が多い勝連城跡（休憩所）や、今後整備が進められ、歩道や植栽などの整備が行われる県道16号線（（仮）シンボルロード）を回遊ルートの起点とする。

4) 各ゾーンやエリアをつなぐ「まち歩き空間」を整備

- 地区全体を回遊できるように、各ゾーンやエリアをつなげる散策路を整備する。
- 農家と連携して、地域に残る農地の活用を検討する。

5) 地域の産業の活用

- 地域の産業（農業、漁業、製造業、IT業など）を活用し、観光客に農漁業体験や工場見学等に参加してもらうことで、地域との交流を促す。

6) 多様な移動手段による回遊を提示する

- 自動車や徒歩以外にも、自転車などを利用した回遊コースを提示する。

回遊コースのイメージ



(2)重点資源の設定の視点

重点資源の設定にあたっての視点は以下のとおりです。

1) 勝連南風原地域の歴史・文化を知る上で重要な位置づけがある

- 集落の形成や街区割など地域の歴史を知る上で重要な資源を重点資源とする。
- 当時の暮らしや行事などの地域の文化を知る上で重要な資源を重点資源とする。

2) 既存のまち歩きルートで位置づけられている

- うるまーいなどの既存のまち歩きで活用している地域資源は、説明サインや案内サインなどが既に設置されているため、重点資源とする。

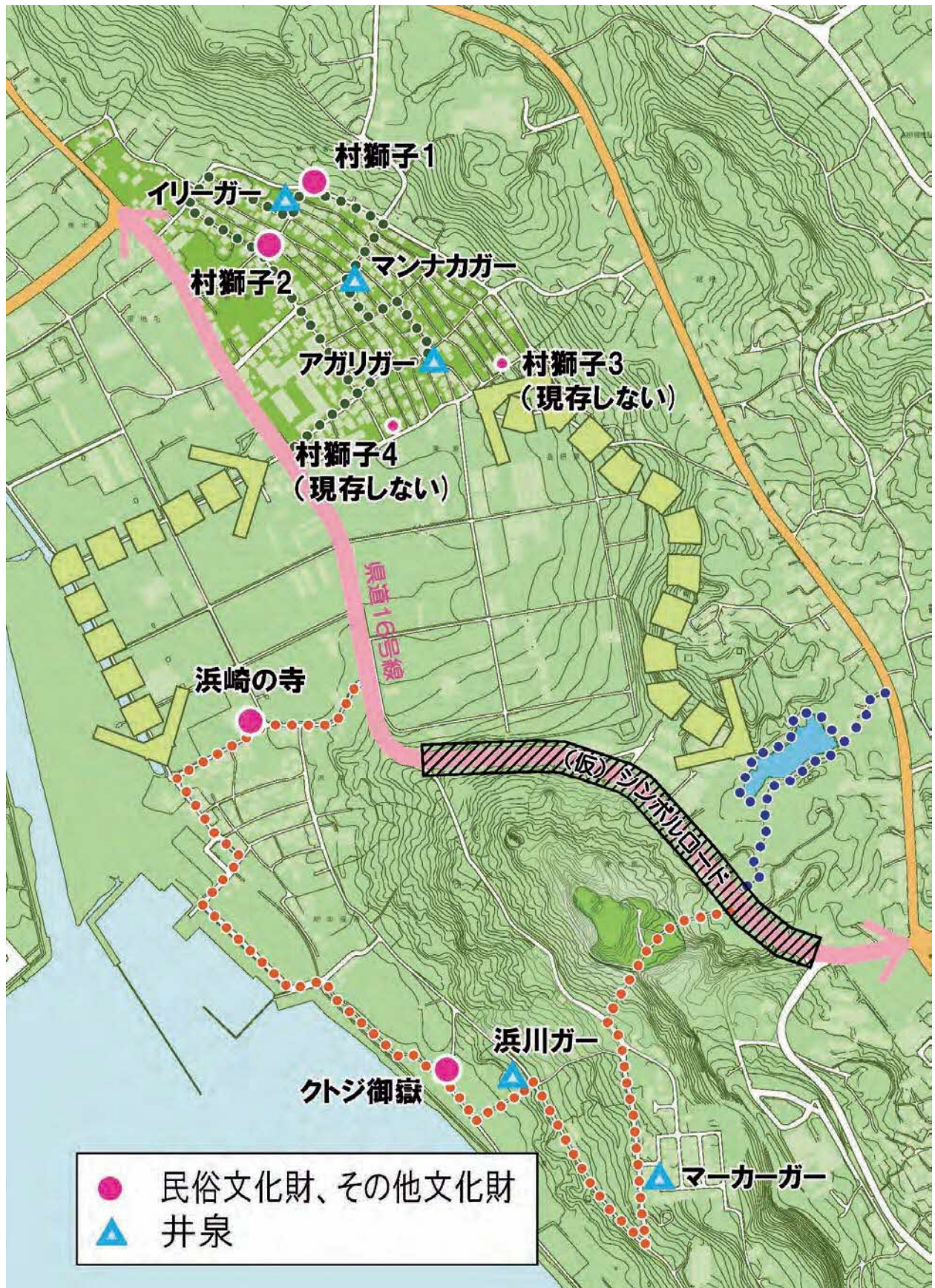
3) 観光客と地域住民との交流や地域住民が管理しやすい環境である

- 周辺に一定の空間がある地域資源では、観光客が留まれる、交通の妨げにならない、説明サインなどの整備ができるため、重点資源とする。
- 多くの住民が暮らしている集落内の地域資源は、地域住民が管理しやすいため、重点資源とする。

重点資源（11 か所）

①南風原の村獅子 （4 か所）	・南風原の村獅子は、1726 年に勝連城の南側斜面の地域から、現在の集落に移動してきた時の、村の境界を示すものであり、南風原の村獅子を村の骨格を表す重要な資源である。 ・村獅子1（北側、市指定文化財）と村獅子2（西側）は現存しているが、かなり破損しており、村獅子3（南側）と村獅子4（東側）は現存していない。
②南風原集落内のカー （アガリガー、マンナカガー、イリーガー）	・南風原集落内の3つカー（アガリガー、マンナカガー、イリーガー）は、旧藩時代に作られた共同井戸であり、当時の人々の交流の場であったことから、地域の歴史や文化的にも重要な資源である。 ・3つのカーは、洗い場のスペース（3m×4m程度）があり、案内サインや説明サインなどの整備が可能であることから、新たな交流の場として活用が期待される。
③浜川ガー、マーカ－ガー	・浜川ガーとマーカ－ガーは、うるまーいのルートで設定されている資源であり、勝連城跡周辺の回遊において、今後も活用していくため、重点資源として位置付ける。 ・浜川ガーには説明サインが整備されているが、マーカ－ガーは説明サインが整備されていない。
④浜崎の寺、クトジ御嶽	・浜崎の寺、クトジ御嶽は、うるまーいのルートで設定されている資源であり、勝連城跡周辺の回遊において、今後も活用していくため、重点資源として位置付ける。 ・浜崎の寺とクトジ御嶽とも、案内サインと説明サインが整備されている。

重点資源の位置図



6 全体整備方針図

全体整備方針を以下に示します。



歴史・文化のストーリー化



村獅子の整備



カーの整備



歌碑の建立



ガイドによる説明

地域住民との交流の創出



農業体験



獅子舞



かっちゃん南風原まつり

移動したくなる環境の整備



回遊路の整備



資源の景観形成



回遊拠点の整備



案内板の設置



自転車ポートの整備



駐車場の整備

地域主体による管理・運営



沿道の美化活動



休耕田の活用

